

外傷ニ續發セル吃逆性痙攣特ニ「ワゴトニー」トノ 關係ニ就テ

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2017-10-04 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/2297/30771

外傷ニ續發セル吃逆性痙攣特ニ「ワゴトニ」

トノ關係ニ就テ

(金澤醫學會所演)

金澤醫科大學第二外科(主任泉教授)

川 崎 順 二

神經系統中ノ植物性神經ニハ交換神經ト副交換神經ノ二ツガアリマス。之ノ兩者ノ作用ハ常ニ相對抗シテキルモノデ、是ハ藥物的ニ區別スル事ガ出來マス。即チ「アドレナリン」ハ交換神經ノ、「ピロカルピン」ハ副交換神經ノ刺戟藥トシテ作用致シマス。

吾人平素ノ生活狀態デハ此兩者ガ具合ヨク「アンタゴニスト」ニ働イテ正常ノ生理的機能ヲ營ンデ居ルノデアリマシガ、一朝何等カノ原因ニ依ツテ之ノ平衡ガ破レルト、或ル「フンクチオン」ガ異常ニ亢進、又ハ減退シマス。又或人デハ敢テ病的デナク、特ニ一方ノ神經ガ異常ニ緊張シテキル事ガアリマス。是ハ藥物的實驗ニヨツテ證明スル事ガ出來マス。即チ「アドレナリン」ニ特ニ敏感ノモノト、反對ニ「ピロカルピン」ニ特ニ敏感ノモノトガアリマス。前者ヲ「ジンバチゴトニ」ト言ヒ、後者ヲ「ワゴトニ」ト稱シテキマス。患者ガ此兩者ノ内或ル一狀態ニアルガタメニ特ニ或ル刺戟ニ對シ敏感ニナル事ガアリマス。即チ「ジンバチゴトニ」ノ患者ガ「クロマフィネシステーム」ニ刺戟ヲウケルト、其刺戟ガ極鎖細ナモノデモ充分ニ一刺戟トナツテ病的發作ヲ起スニ至リマス。又「ワゴトニ」ノ患者ガ「バラジンバチシエ、システーム」ニ刺戟ヲウケルト直チニ病的症狀ヲ現ハス事ノアルノハ既ニ世ニ知ラレタル事デアリマス。私ハ此處ニ「ワゴトニ」ニ關係アル面白イ實例ニ接シマシタノデ之ヲ報告シテ諸君ノ御教示ニ預リタイト思ヒマス。

最近第二外科ノ「クリニツク」へ甚敷シイ吃逆的痙攣ヲ連續的ニ起シテキル患者ガ來マシタ。患者ハ十二歳ノ男子、生健來康デ既往症ニハ「ジンバチコトニ」及ビ「ワゴトニ」ニ見ルベキ症狀ハアリマセン。

現病歴トシテ本年六月初メニ、認ムベキ原因ナク水様下痢ヲ起シマシタ。夫レハ一日五六回モアリマシタガ醫療ニヨリ治リマシタ。六月一日ニ入浴中右下肢ヲ捻挫シテ右股關節、膝關節及ビ足關節ニ疼痛ヲ來シマシタ。依テ某醫師ヲ訪ヒマシタ所、下肢ノ痛ミハ脊柱ノ疾患(詳シイ事ハ目下其醫師ニ紹介中デアリマスガ)ニ原因スルトイフノデ胸椎部ノ右側ヲ手掌ヲ以テ強く壓迫シタソウデアリマス。其時以來患者ハ之ノ壓迫個所ニ激痛ヲ覺エ次第ニ其度ヲ増シマシタ。翌日ノ夕方ニ突然軀幹ノ上部即チ上肢カラ頸部及ビ胸部ニ渉ル痙攣發作ガ起リマシタ。(之ノ發作ガ外傷後直チニ來ナカツタトイフ事ハ局所ニ出血等ガアツテ「グレンツ、ストラング」又ハ「ワーグス」ニ漸時ニ或ル刺戟ガ加ハツタモノデハナイカト思ヒマス。)而シテ此發作ハ連續的ナ吃逆運動ノ様デアリマシタ。其夜ハ約五時間程眠リマシタガ、睡眠中ハ何ノ發作モ起リマセンガ、醒メルトスグニ前様ノ發作ヲ頻發シ其痙攣ガ甚シイ故ニ患者ハ言語ヲスラ發スル事ガ出來ナカツタト申シマス。

之ノ痙攣ハ日ト共ニ甚敷ナリマシテ六月十六日ニ吾々ノ「クリニツク」へ參リマシタ時ニハ甚敷吃逆ノタメニ一語ヲスラ發スル事モ出來マセンノデ、家族ノ者ハ此吃逆ノタメニ死ノ來ラン事ヲ恐レタ程デアリマシタ。然シ食慾ハ不充分ナガラアリマシテ多少ノ食事ハ攝取スル事ガ出來マシタ。

患者ノ體格ハ中等度デ榮養ハ不良、顔面ハ蒼白デアリマス。絶エズ軀幹ノ上部即チ上肢、頸部ニ渉ル吃逆性痙攣ヲ來シテ居マシタ。特ニ注意スベキハ背部第四、第五胸椎ノスグ右側ガ頗ル過敏デ壓痛甚ダシク且ツ少シク膨隆シテキタ事デアリマス。

チエルマック氏現象ヲ試ミマシタ所「頸動脈ニ沿フテ「ワーグス」ヲ壓迫ス」忽チ頻數ナ吃逆發作ヲ起シマシタ。痙攣ノ激數タメニ脈搏ハ正確ニ數ヘル事ガ出來マセンデシタ。次ニアツシユネル氏現象ヲ試ミマシタ所、眼球壓迫ヲ行ヒ

(452)

「マスト直ニ激烈ナル吃逆發作ガ頻發シマスノデ前同様、正確ナ脈數ヲ知ル事ガ出來マセンデシタ。肺及ビ呼吸器ニハ別ニ異常ハアリマセン。患者ハ二、三年來下痢ニ傾イテキマス。尿中ニハ「ザル」トリウブン」ヲ認メ便中ニハ鞭蟲卵ヲ認メル外異常ハアリマセン。

「レントゲン」検査トシマシテハ右ノ横膈膜ガ高クテ左ガ低ウゴザイマシタガ、之ハ病的ニ高イ程度ノモノトハ思ハレマセン。次ニ第四、第五ノ胸椎部ノ「レントゲン」寫眞ヲトツテ見マシタガ、右第五肋骨ノ起始部ガ少シク高位ニアルカト思ハレマス外異常ハアリマセン。

次ニ藥物的診斷上ノ處見トシテハエツピングル、ヘスニヨリマシテ「アドレナリン」及「ピロカルピン」ヲ用ヒテ試験ヲシマシタ。其反應ハ「アドレナリン」デハ注射後ニ脈搏増加ガ二〇以上、定性的ニ糖尿ノ現出、血壓上昇ガ二〇ミリメートル以上、強度震顫及ビ心悸亢進等ガ起レバ「ジンバチコトニ」陽性トシ、「ピロカルピン」ヲ用ヒタ場合ニ注射後熱感、流涎、發汗等ガ起レバ、「ワゴトニ」陽性ト定メマシタ。時間ハ皮下注射後大約七分又ハ八分間ノ觀察ニヨルモノデアリマス。以上ノ標準ニヨリ患者ニ行フタ成績ハ次ノ様デアリマス。

(一)、アドレナリン(〇・〇〇〇四) 注射前

注射後

脈 搏 八九—九〇

九八—一〇〇

糖 尿 (一)

(一)

血 壓 七五 m. m.

八五—九〇 m. m.

心悸亢進 (一)

僅カニ亢進?

震 顫 (一)

(一)

即チ「ジンバチコトニ」ハ陰性ト認メ

(二)、ピロカルピン(〇・〇〇五) 注射前

注射後

體 温

三六六

三六七(患者熱感多大)

流 涎

出現増加

發 汗

出現著明

脈 搏

八〇—八二

九五—九六

吃逆痙攣(藥効ニヨリ皆無)

出現頻數

即チ「ワゴトニ」ハ陽性ト認メマシタ。

更ニ「アトロピン」〇〇〇五ヲ用ヒテ検査シマシタニ脈搏數ハ注射前ニハ九〇デ注射後ハ八八、デアリマス。口渴及ビ心悸亢進ハ注射前後トモアリマセンデシタ。

之ノ場合ニ於ケル患者ノ「ワゴトニ」ガ生來ノモノカ、或ハ何カノ原因ニヨリ「ワーグス」ガ一時性ニ刺戟サレテ此状態ヲ來シテキルモノカハ今急ニ確定スルワケニハ行キマセンガ、此患者ガ現在「ワゴトニ」ノ状態ニ置カレテアル事ハ明カデアリマス。而シテ爰ニ最モ興味アルコトハ「ピロカルピン」ヲ注射スルト此患者デハ「ルミナル」ニ依ツテ殆ド止ツテキタ吃逆ガ注射後五、六分デ激シク再發シ來ツタ事デアリマス。此事實カラ考ヘマスト此患者ハ何カ「ワーグスシステーム」ニ刺戟ガ加ツテ吃逆ヲ起シテキルノデハナイカト思フノデアリマス。而シテ此患者デハ「ワーグス」ノ「トースス」ヲ弱メル藥物ヲ與ヘルト吃逆ハ直グニ止ムノデアリマス。然シ其刺戟ガ何デアルカハ尙研究シナケレバナラヌガ、之例デハ或ハ脊椎ノ壓迫ニヨツテキタ出血等ガ其因ヲナシテキルノデハナイカト思ヒマス。然シ此點ハ今日ハ深く申シマセン。

此様な現象ハ「スバスマフィリ」又ハ「ラテントタタニ」ニモヨク來ル事ガアリマスカラトルソ—及クボステツク等ノ現象ヲ試ミマシタガ、何レモ反應ガアリマセン。即チ之患者ガ少シモ「スバスマフィリ」ノ素質ヲ有シテキナイ事ガ明カニナリマシタ。

入院後ハ熱發モナク「ホーレル水」ト「ルミナール」ノ併用ニヨリ吃逆ハ一時治癒シマシタガ「ピロカルピン注射」ニヨリ再發シテ現況ニアリマス。本日皆様ニ之ノ吃逆状態ヲ御覽ニ入レルタメニ「ルミナール」ハ中止シテアリマス。又此例デハ「アトロピン」ヲ適量ニ用フレバ之ノ發作ハ直チニ治癒セシメウル事ト思ヒマス。

患者供覽

チエルマック氏現象及アツシユネル氏現象實施供覽。